

特別活動

特別活動では、学級活動、生徒会活動及び学校行事の内容のまとまりを踏まえ、ねらいとする資質・能力を育成することが求められています。特に、主権者として積極的に社会参画する力を育てるため、ねらいとする資質・能力の特質を踏まえた指導の充実を図ることが大切です。

中学校特別活動の授業づくりのポイント

- 社会の形成者である主権者に求められる資質・能力の明確化
- 生徒の自発的、自治的な活動となるような一連の学習過程の整理
- 問題の発見や話し合いにおけるICTの効果的な活用

社会の形成者である主権者に求められる資質・能力の明確化

- ①集団や社会における人間関係をよりよく形成する「人間関係形成」
- ②自分たちの集団の生活上の課題解決に向けた自発的、自治的な関与である「社会参画」
- ③なりたい自分やよりよい自分を目指し、目標をもって取り組む「自己実現」

児童生徒は、学級活動等において、みんなで話し合っただけで決めたことに協力し合っただけで取り組んだり、自分のよさや可能性を発揮しながら活動に取り組んだりすることを通して、自分と集団や社会との関係に気付くだけでなく、自分たちで、自らの集団や社会の生活をよりよいものにすることができた、という実感をもつことができます。

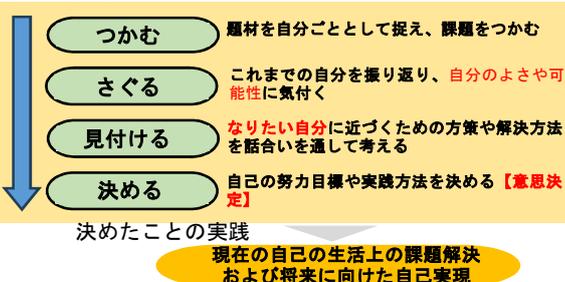
そのため、社会の形成者である主権者に求められる資質・能力を明確にし、育成を目指す資質・能力を各教科等で学習したことも含めて、特別活動の実践活動や体験活動を通して体得させていくようにすることが必要であり、そのことが特別活動全体の目標の実現にもつながります。

生徒の自発的、自治的な活動となるよう一連の学習過程の整理

資質・能力の育成に向けた学習過程の工夫

学級活動(3)の指導の工夫例

問題意識をもつ



学級活動(3)については、左の図の学習過程を踏まえて、現在の自己の生活上の課題の解決及び将来に向けた自己実現を図ることが大切です。

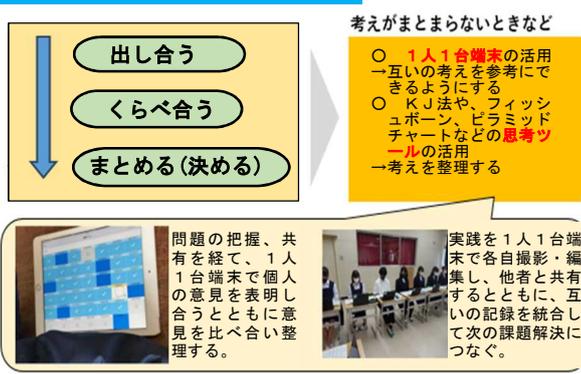
学級活動(3)においては、キャリア形成に関わる学習を行う必要があり、活動の工夫例として、事前アンケートの活用、キャリア・パスポートの活用、養護教諭等学級担任以外の教職員との連携などが考えられます。

学級活動(2)は今の課題解決を、学級活動(3)はキャリア形成に関わる「これまでの振り返り」を意識し、学習過程の違いを踏まえた授業づくりをすることが大切です。

問題の発見や話し合いにおけるICTの効果的な活用

資質・能力の育成に向けた学習環境の工夫

話し合いの際のICT端末等の活用



話し合いの際に考えがまとまらない時には、学習環境の工夫の一つとして、1人1台端末等を利用し、互いの考えを参考にできるように配慮する必要があります。

例えば、1人1台端末を使うことにより、デジタルホワイトボードに個人の意見を表明し、意見を比べ合ったり、整理したりするという活動が考えられます。

生徒がどのようなツールを使えば活動が円滑に進んでいくのかについて教師が把握していくことが大切です。

1人1台端末を活用しない場合でも、KJ法や、フィッシュボーン、ピラミッドチャートなどの思考ツールを活用することが考えられます。